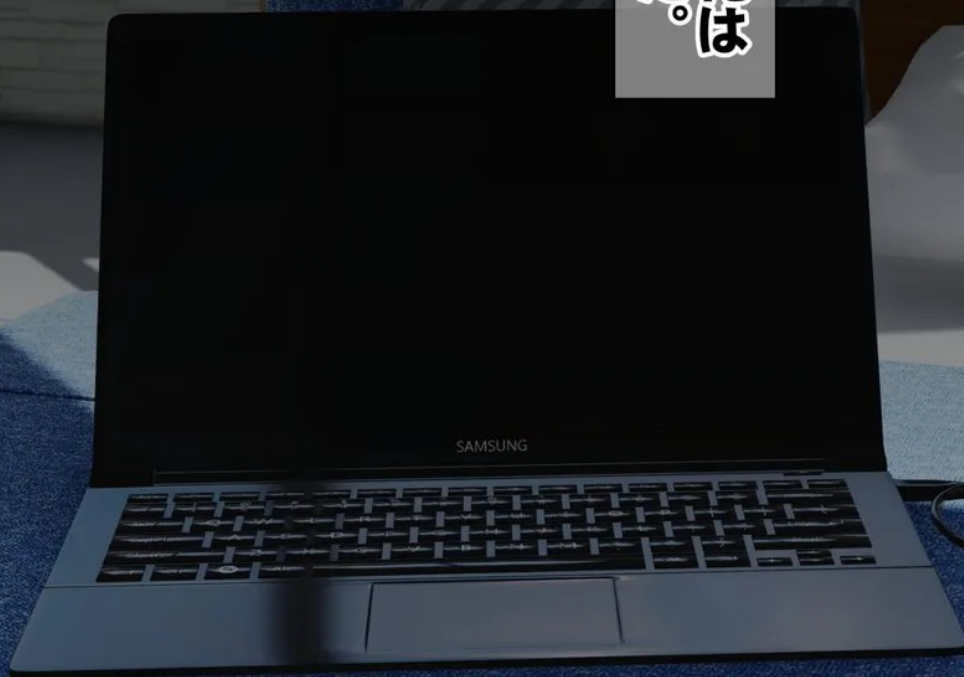


妹は
親父を
拒めない!?

3

IronSugar
アイアンシュガー

一つの動画を見終った俺は
しばらく呆然としていた。

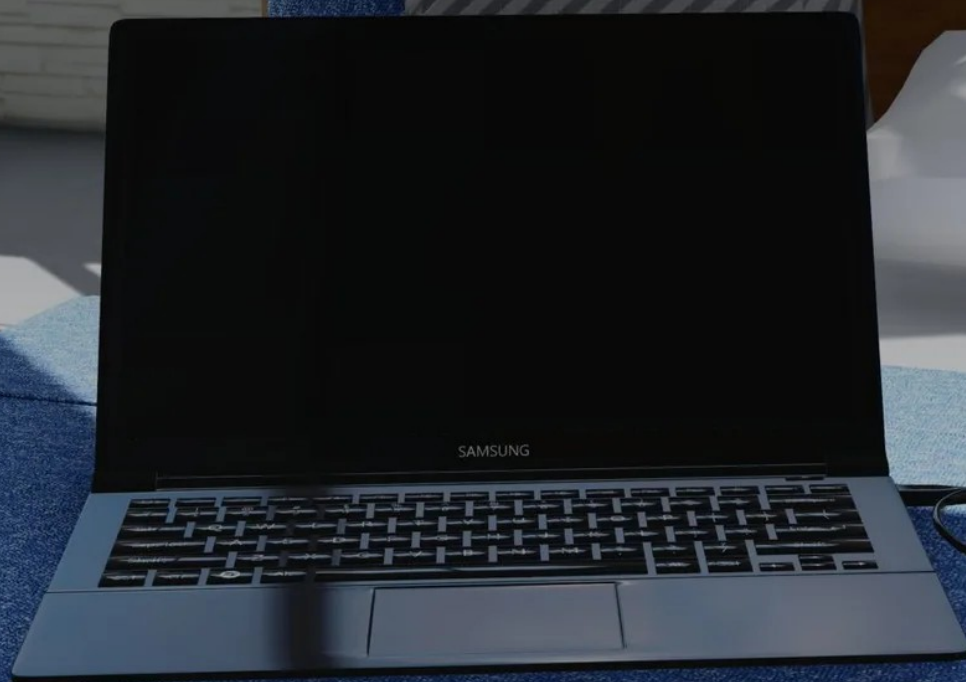


親父が撮影した動画には
明らかに一線を越えている
行為が記録されていた。

しかもざっと見たところ
同じような動画がまだ
数十本はあるみたいだ。

ということは2ヶ月前から
こんな事がほぼ日常的に
繰り返されていたって事か？

これは想像してた以上に
深刻な状況だった。

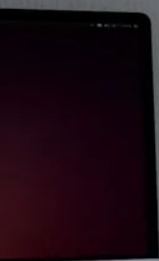


俺はとりあえず証拠を残すため、
親父のPCに入っていた動画を
手持のHDDにコピーする。

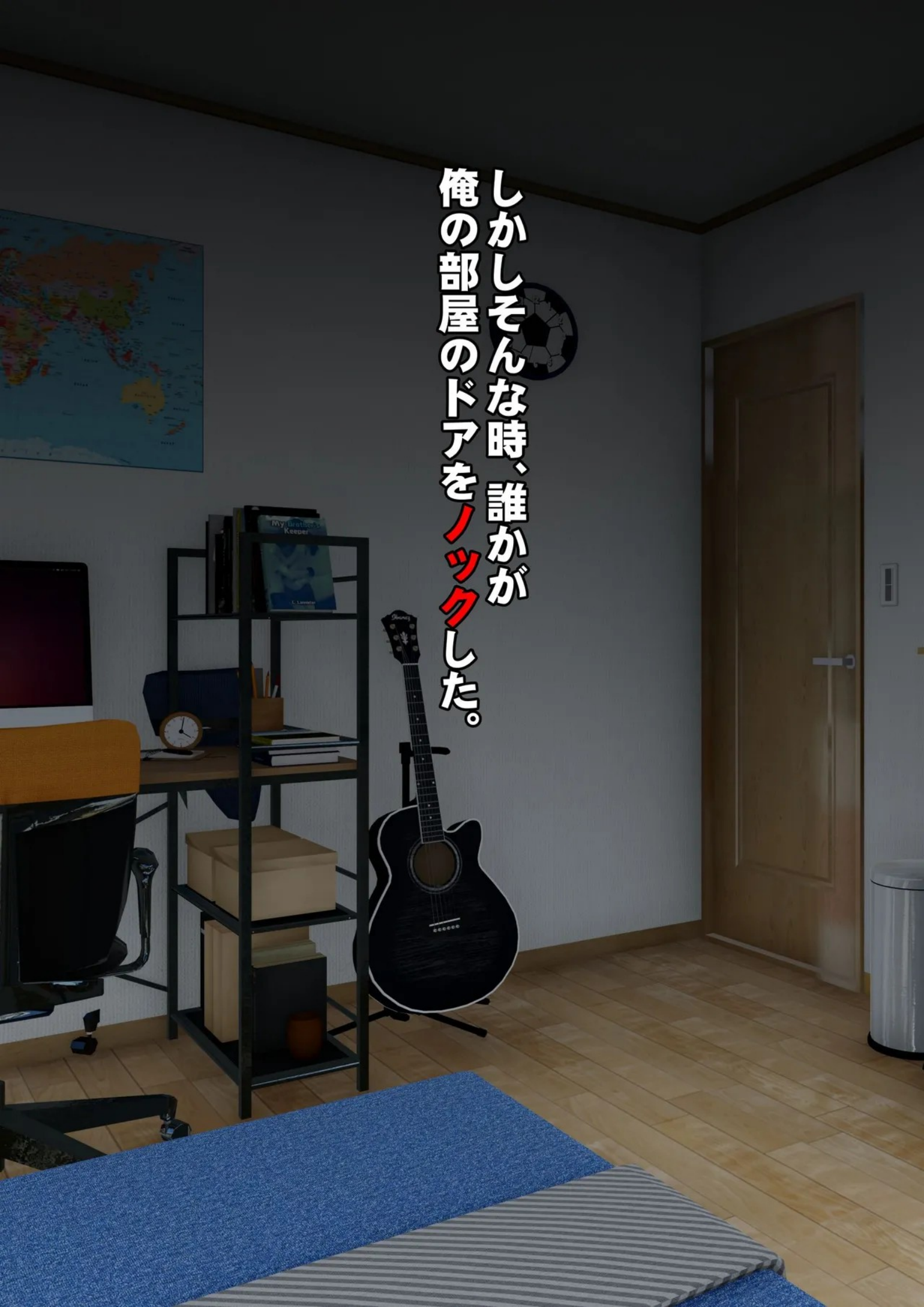
コピーが終わったら
このPCは親父の部屋に
さっさと戻すつもりだ。

このタイミングで
万が一にでも親父が
家に帰ってきたら
かなりヤバイ事になる。

残りの動画のチェックは
落ち着いてからやろう。



しかしそんな時、誰かが
俺の部屋のドアをノックした。







ううっ…ヤバイ。
どうしよう…？

ドキ

PCが無い事に気づいて
取返しに来たとか？

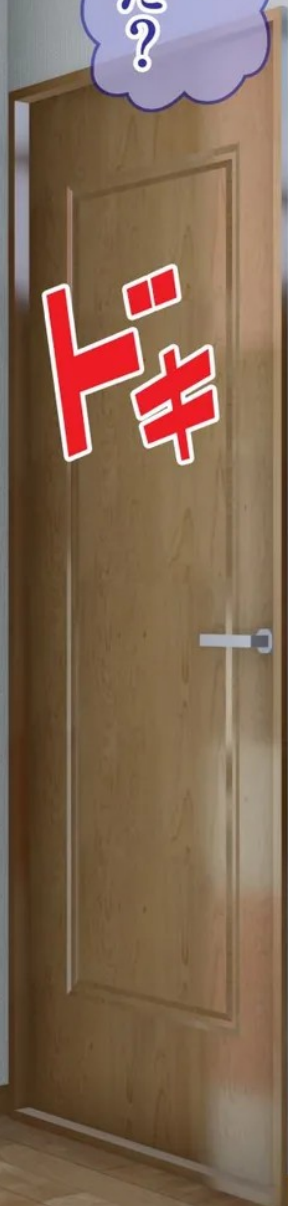


も、もしかして
親父か…？

うっ！
だ、誰だ？

ドキ

ドキ



俺は慌ててPCの電源を落そうかと手を伸ばす。

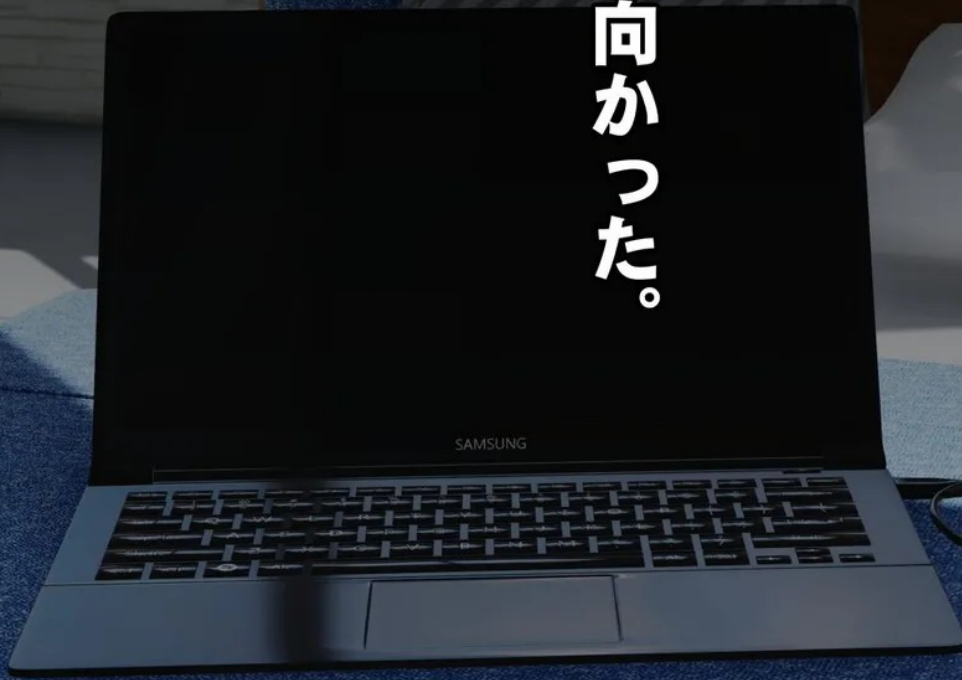
だが、まだ動画のコピーが終わっていない。

完了するまで待つべきか？いや、でもグズグズしてたら親父が入って来てアウトだ。

……こうなったらなんとか誤魔化してやり過ごすしかない。



俺は意を決して
ノックされる**ドア**に向かった。



あ...。
やっぱいた。



俺が部屋のドアを開けると
そこには**有理香**が立っていた。

てつきり親父だと
思い込んでいた俺は
唖然としてしまった。

なんでコイツが
家にいるんだろう？



ドキ

おおっ：なんだ？
なんか俺に用か？

ドキ

ニ

え？いや：別に
用とかはないけど。

玄関に靴があったから
家にいるのかな？ってさ。

ドキ

そ：そうか。

ドキ



お、お前の方こそ
学校はどうしたんだ？

まだ下校時間
じゃないだろ？

え？あ……うん。
今日は半ドンでさ。
行事の準備とかで。

な、なるほど。



有理香と会話していると
俺の心臓は早鐘を打ち始める。

有理香の顔をまともに
みる事が出来ない。

ついさっき親父の動画を
見てしまった影響だろう。

それだけあの動画は
俺にとって衝撃的だった。



親父は最初から性的な目的で
撮影に誘っていたんだろう。

言葉巧みに誘導され
有理香は全裸を晒した。

柔らかそうな胸。
肉付きの良いお尻。

その魅力的な身体を
ネチネチ視姦する親父。



その後、暴走した親父は
有理香に襲い掛かった。

親父に突かれるたびに
今まで聞いたこともない
喘ぎ声を上げる有理香。

勃起チンポを下着越しに
押し付けられた有理香は
アソコが大洪水だった。

その光景は非現実的で
どうしようもなくエロかった。



そして今朝、玄関先で
目撃した行為……。

親父にディープキスを
しかけられた有理香は
メロメロにされていた。

2人に漂う雰囲気から
こういった行為が日常的な
ものだと感じていた。

それもそのはず……。
親父は2ヶ月も前から
手を出していたのだから。



その後、親父に胸や乳首を
執拗に攻められ、有理香は
文字通り骨抜きにされる。

抵抗力を失った有理香を
部屋に連れ込もうとする親父。

俺が小細工で邪魔したので
最悪の事態は回避したが……

あのまま放置したら
取返しがつかない事にな
っていたはずだ。

ねえ、どうしたの？
さっきからボーっと
しちゃってさあ。

顔もなんか
ちよっと赤いよ？

？

うっ……！！

ドキッ



有理香に声をかけられた。
俺は現実引き戻された。

イカンイカン。
妄想トリップしてる
場合じゃなかった。

俺がああの動画を見た事を
有理香は知らない。

挙動不審にならないよう
態度には注意しないと。



ああ…なんでもないって。
ほら、アレだ…。

さっきまで課題とか
やってたからさ。

疲れが溜まって
ボーっとしてた。

ふくん、そうなんだ。
勉強の邪魔しちゃった？

いや…別にいいよ。

コホン：それより
悪かったな昨日は。

は？なにが？

いや：昨日は俺、お前に
偉そうに説教しただろ？

え？あ：うん。

あの後：反省してさ俺。
少し言い過ぎたなと思って。



ああ・・・別に
それはもういいよ。

よく考えたらさあ・・・
この歳でお風呂一緒に
ちよつとマズイよね。

今度、誘われたら
ちゃんと断ろうって
思ってるからさ。

そ、そうなのか？
まあ・・・お前がそう
決めたのならいいけど。

でも…なんか困ってる事が
あったら俺に相談しろよ？

一応、お前の兄貴なんだからさ。

はあ？あ…うん。

あ、ありがとう。



親父と有理香の関係は
まだ不明な点も多い。

だが、今朝の様子を見ると
有理香は親父との関係に
強い葛藤を見せていた。

だとしたら、有理香はきっと
一人で悩んでいるはずだ。
なら、兄貴として助けてやりたい。



あはは：：なにそれ？
やけに優しいじゃん？

なんか悪いモノ食べた？
拾い食いとかさ？

あ：あのなあ。
俺は真剣に話してんだぞ。

冗談！冗談！
だって突然、恰好良いこと
言い出すからさあゝふふ。

んゝまあ：でも
ありがとね。

じゃあ：：
なんかあったら
相談するから。

ああ：：そうだな。
遠慮するなよ？

ふふ：：了解っ。
じゃあよろしくね。
お兄ちゃん。

俺は有理香との会話を終わらせ
部屋に戻ってきた。

有理香が家にいたのは
驚いたがまあ結果的に
仲直りできてよかった。

PCの様子をみると
動画のコピーもさつき
完全に終わったようだ。

後は有理香にバレないように
PCを親父の部屋に戻せば完了だ。



それにしても…
「お兄ちゃん」かあ。

最近は「アンタ」って
呼ばれる事が多かったから
久々に呼ばれるとグツと来たな。



その夜、バイトも休んだ俺は
6時頃に帰宅した親父を交えて
久々に家族3人で夕食を取った。

親父から学校の事など
色々と近況を詳しく聞かれ、
有理香とも少し話をした。

2人に変わった所はなく
普段通りの雰囲気だった。

今朝、目撃した光景や
動画の存在を知らなければ
その関係に気づくことは
一生無かったかもしれないな。

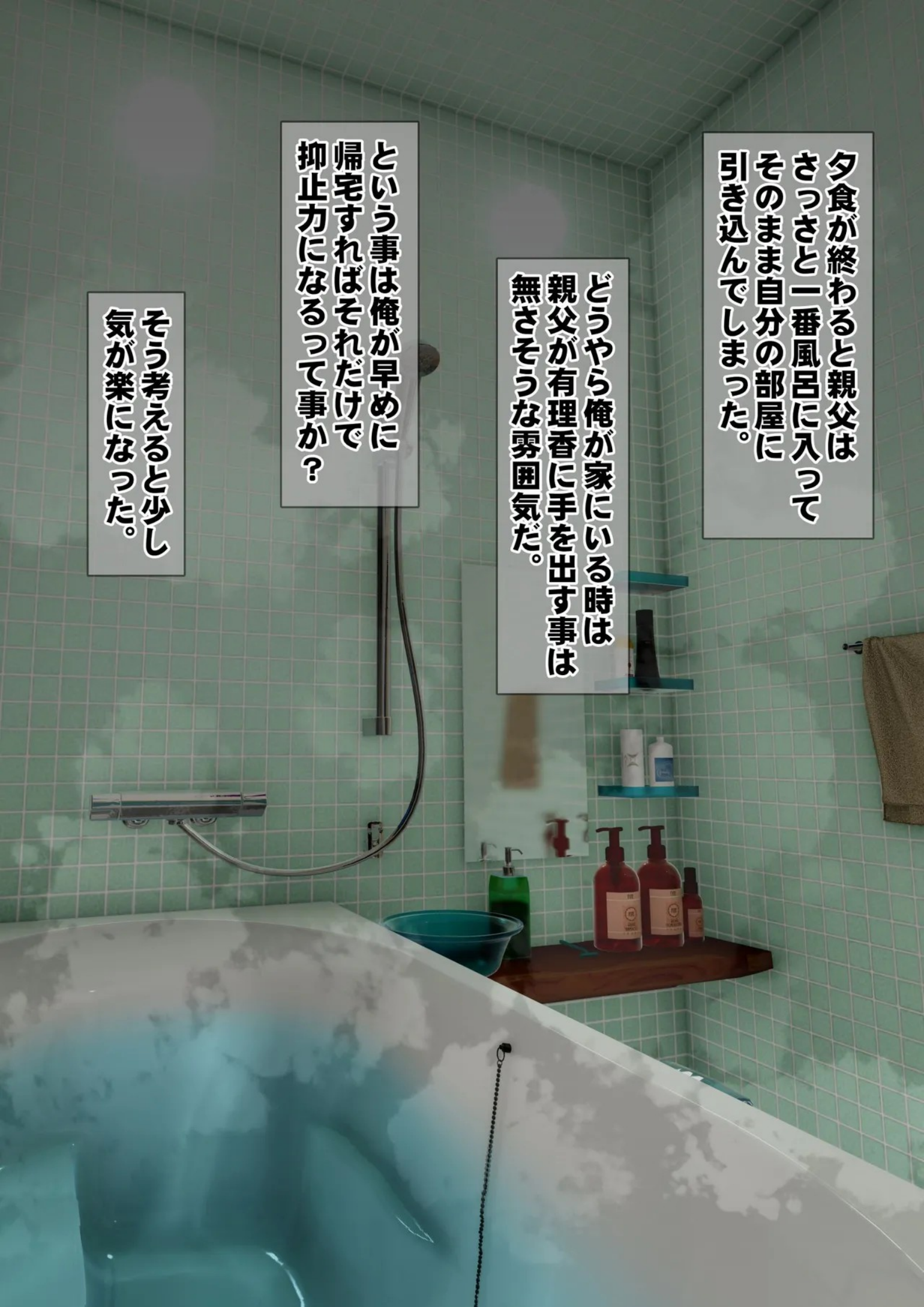


夕食が終わると親父は
さっさと一番風呂に入って
そのまま自分の部屋に
引き込んでしまった。

どうやら俺が家にいる時は
親父が有理香に手を出す事は
無さそうな雰囲気だ。

という事は俺が早めに
帰宅すればそれだけで
抑止力になるって事か？

そう考えると少し
気が楽になった。



風呂から上がった俺は
部屋に戻ってくる。

とりあえず今後の
活動方針は朝・夜の
監視強化でいこう。

そうとなればバイト先には
明日にでも速攻、連絡して
シフト変更を頼み込むか。

最近バイト先も
人手が足りてるようだし
まあなんとかなるだろう。



さてと...

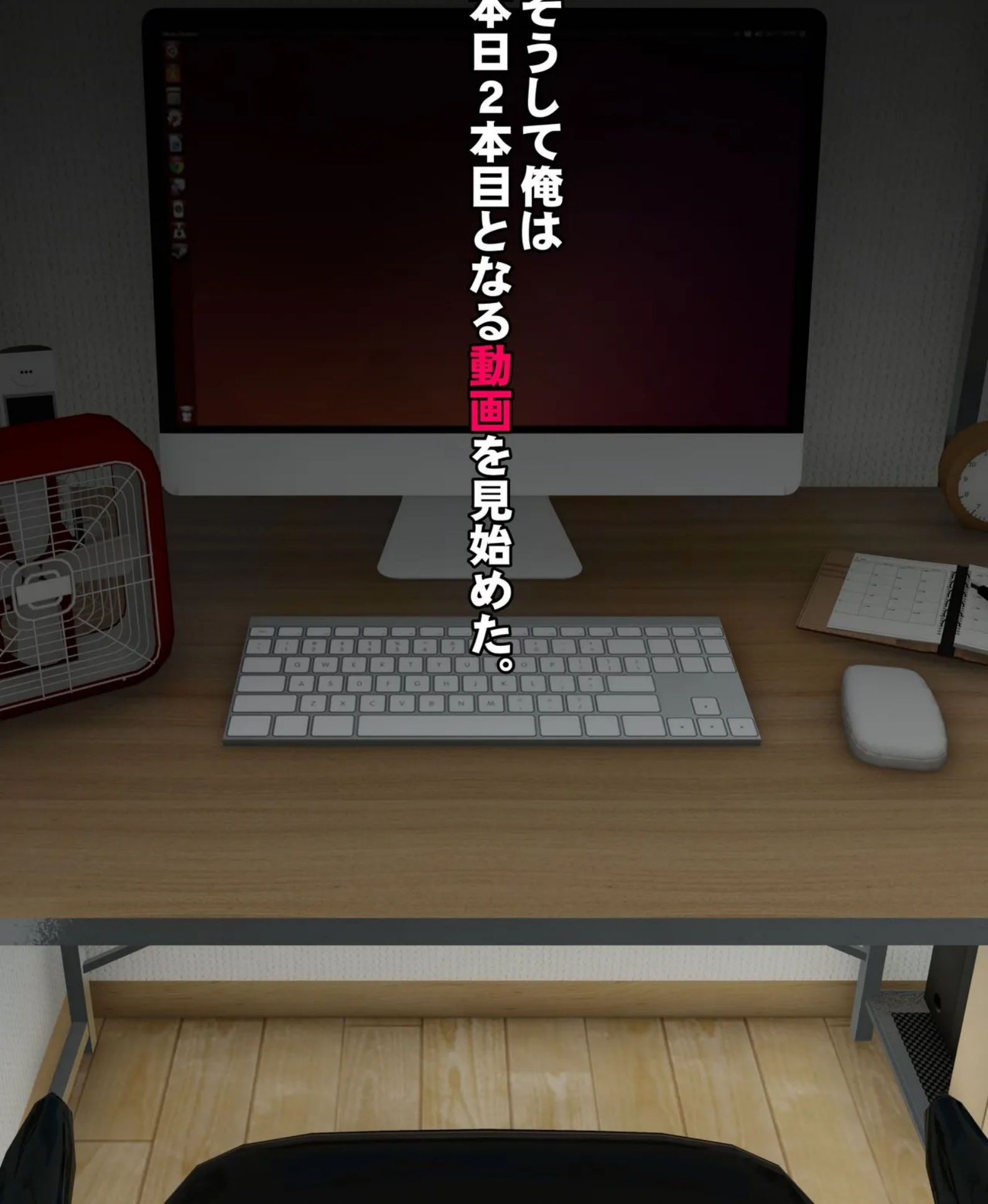
寝るまで時間もあることだし
コピーした動画のチェックを
進めておきましょう。

全部で何十本もあるから
今日だけじゃとても
終わらせようもないけどな。

毎日、少しづつ
見ていこう。



そうして俺は
本日2本目となる**動画**を見始めた。



は？もう
撮ってんの？

ああ、撮ってるぞ。

まったく：もう。
撮るなら一声かけて
からにしてよね？

はは：。。
スマンスマン。

ス
ル
ッ



動画が始まると
画面いっぱい丸い
お尻が映し出された。

肉付きがよくて
魅力的なヒップだ。

有理香はブツブツと
悪態をつきながら
パンツを脱いでいる。

前回と同じように
2人はリビングで
撮影会を開いていた。





おっ・良い
脱ぎっぷりだ。

うっせー。

うっせー。

うっせー。

パンツを脱いだ有理香は
今度は上着をまくり上げた。

ブラはつけておらず
上着をめぐとポロンと
大きめの胸が露出する。

見た感じサイズは
DかEはありそうだ。

昔はガリガリだったのに
こんなに大きく育つとは
予想もしていなかったな。



服を全て脱いで
全裸になった有理智香は
カメラの前に立った。

手で気持ちガードしていたが
本気で隠す気はなさそうだった。

昨晚、有理智香は俺に裸を
見られて不機嫌そうだった。

それが今、親父の前では
平然と裸になったのを見て
俺は複雑な気分だった。



おや……？
今日もノーブラか。

そういえば最近
ブラを付けているの
を見たことがないな。

夏は基本ノーブラだよ。
蒸れて暑いから。

はは……いかなあ。
胸が垂れてきても
知らないぞ？



は？大丈夫だって。

胸が垂れるような
歳じゃないんだし。

ほら見てよ。

ん

ん

乳首だってツンと
上向いてるじゃん。

てか、そもそも
ブラは健康に悪いって
話もあるんだしさあ。

ふうん。
そうなのか。



じゃあ、いつそのこと
夏は**全裸**で過ごしたら
いいんじゃないか？

は？なんで**全裸**？

裸でいるのが一番、
健康にいいだろう？

そ、そりゃ
そうだけどさ。



お兄ちゃんに見られたら
洒落にならないじゃん。

痴女だってバカに
されそうだし……

はは：アイツには
身体を見られたく
ないって事か？

そりやそうでしょ！
一応、私も女だしさ。

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



ふふふ：しかし
父さんの前では平気で
裸になるじゃないか？

いや：だって
お父さんにはもう
全部見られてるし。

今更隠すのも
逆に変じゃん？

はは：確かになあ。

ドキ

ドキ

ドキ



だから…この撮影とか
ビデオとかさあ…。

絶対にお兄ちゃんに
バレないようにしてね。

ああ、もちろん。

有理香の裸を
見るのは父さんだけだ。
安心しなさい。



さてと……。
ただ裸を撮るのも
芸がないな……。

ちよつとそこの
ピアノを弾いて
みてくれないか？

ん
ピ、ピアノ？

練習してないから
弾けないんだけど。

適当でもいいさ。
弾いてるフリだけ
してくれたらな。



ええ〜。。。
ま、マジで？

しばらく触ってないから
本当に全然弾けないよ？

ふふ：別に構わんぞ。
父さんは裸の映像が
撮りたいだけだしな。

はあ〜つたく！
じゃあ弾くよ？



A detailed illustration of a woman with long black hair, seen from the back and side, playing a black piano. She is unclothed, with large, prominent breasts and a visible navel. Her hands are positioned on the piano keys. The background is a simple wooden wall.

親父に説得された有理香は
しぶしぶピアノを弾き始める。

上半身が動くたび
その形の良い胸が
プルンと揺れる。

ペダルを踏むと
太ももの隙間から
陰毛が見え隠れする。

その全裸ピアノの演奏は
やけに背徳的な光景だった。

あはは、なにこれ？
酷い音なんだけど。

このピアノいつ
調律したんだっけ？

音が外れまくって
凄い気持ち悪いw

はは：大丈夫さ。
気にせず弾き続けて。



気にするなって
言われてもお。。

こんなに音が外れてたら
まともに演奏できないってば。

そうかあ？
父さんにはよく
わからないけどな。

私、多少は音感あるから
余計に気になるんだって。



そうかそうか。
すまなかつたな。

じゃあちよつと
父さんが様子を
見てやろうか？

え？なに？
お父さん何か
するつもり？

絶対ムリだって！
やめときなよ。



無理かどうかは
やってみないと
わからんだろう？

あはは……。
やらなくても
わかるってば。

お父さんにピアノの
調律とかできるわけ
ないんだしさ。

ふふ：父さんを
甘く見たらダメだぞ？

ま、好きにしたら？

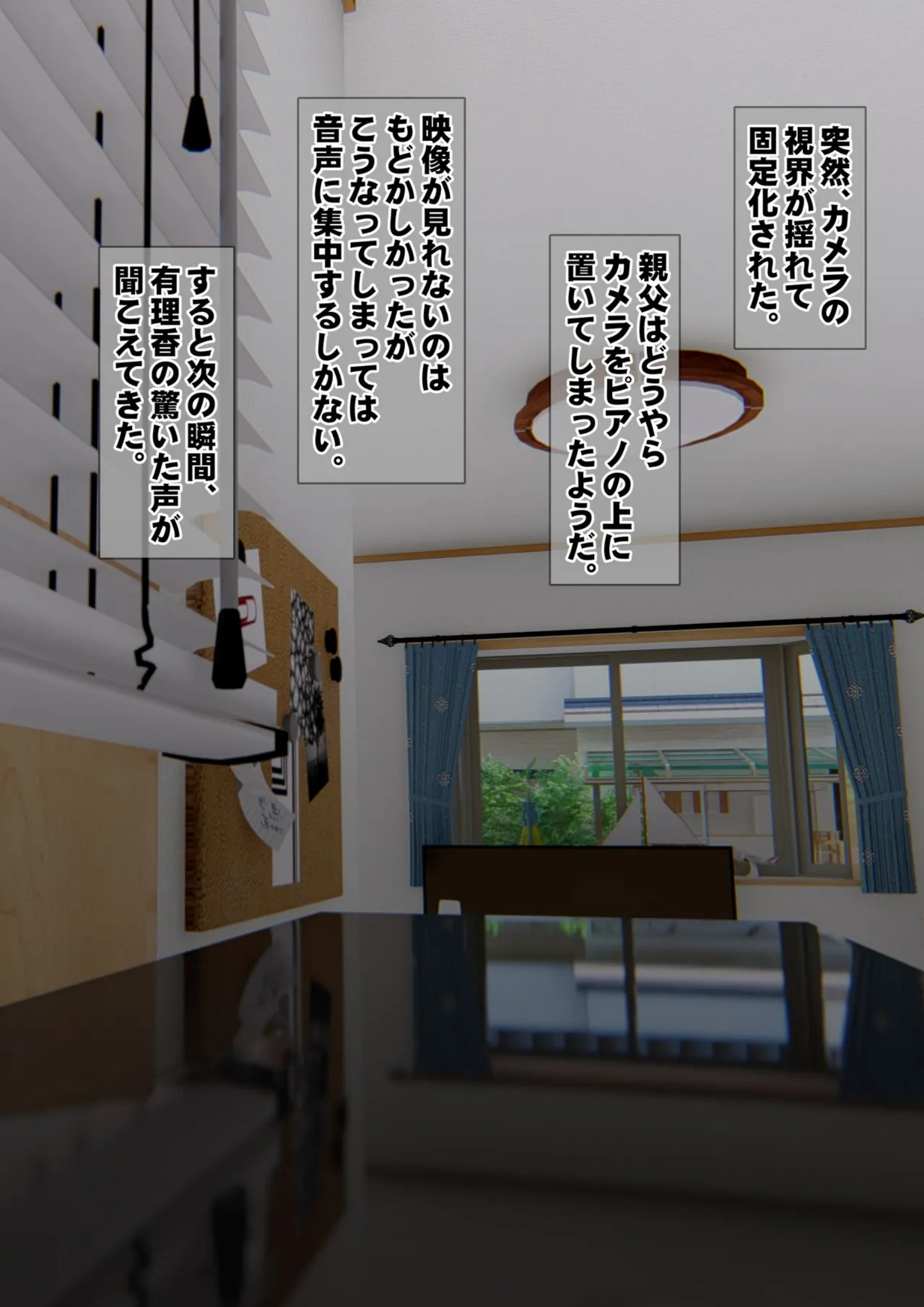
アタシ

突然、カメラの
視界が揺れて
固定化された。

親父はどうやら
カメラをピアノの上に
置いてしまったようだ。

映像が見れないのは
もどかしかったが
こうなってしまったては
音声に集中するしかない。

すると次の瞬間、
有理香の驚いた声が
聞こえてきた。



あつ…や…
ちょ、ちよつと。

な、なにしてんの？
やつ…こらっ。

ん…？言っただとおり
様子を見ようと思ってな。

は、はあつ？
様子見るって言ったのは
ピアノの方でしょ？

……ん……あ。

んっ…

だ、ダメ……
お父さん……。

ク
チュ…

そんなところ……
グ、グリグリしちゃ。

あっ…

いやっ……はっ……。
ん……ああっ。

はっ

ク
チュ…

あっ…



ふふ：なんだ
中はもうこんなにか
濡れてるじゃないか。

あ…

裸でピアノを弾きながら
興奮してたのか？

んあ！

ん：ち、違うって。

はあ

はは、誤魔化してもダメだぞ？
期待してたんだらう？

うう…もうバカっ！

クク

クク

ん…

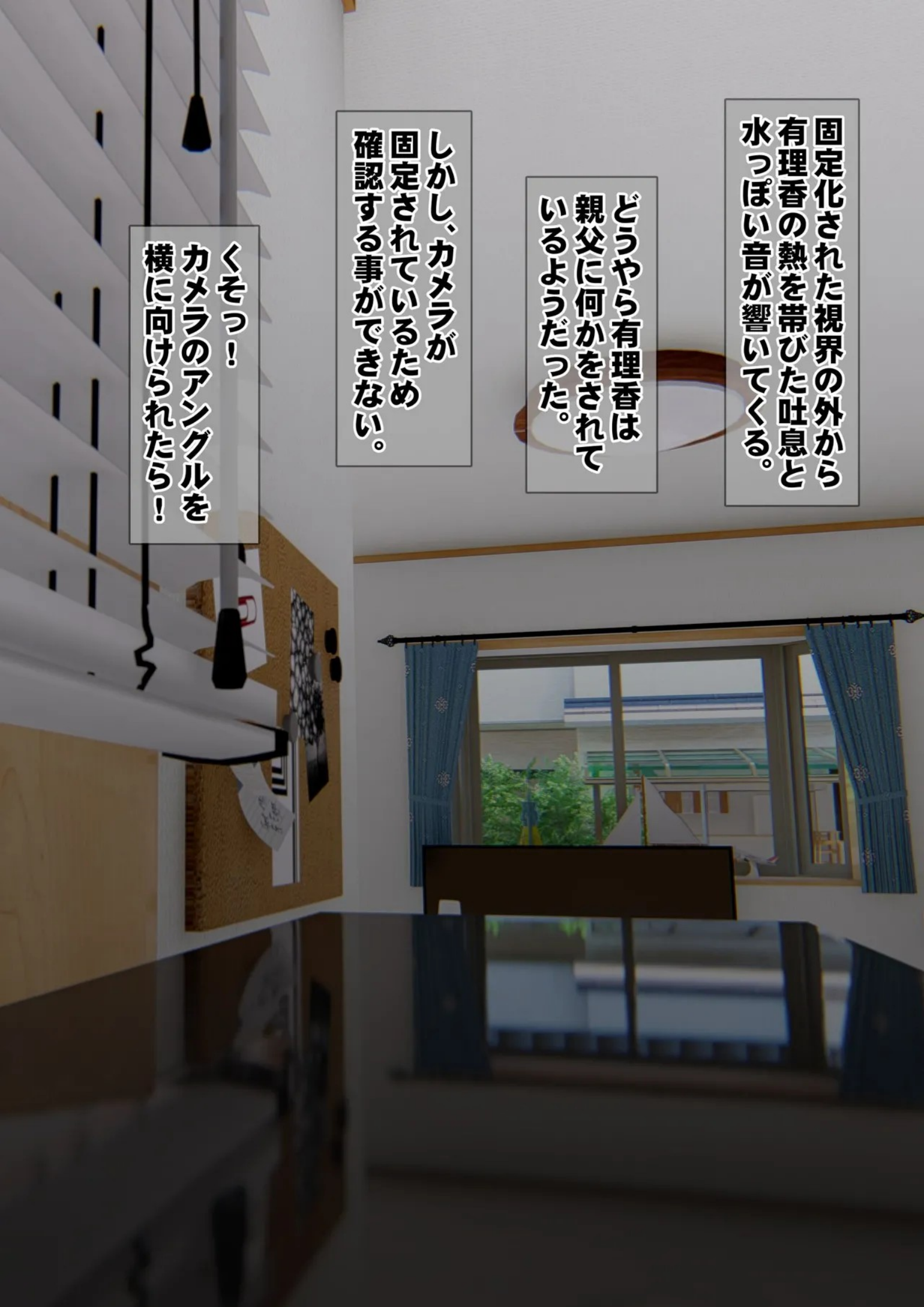
クク

固定化された視界の外から
有理香の熱を帯びた吐息と
水っぽい音が響いてくる。

どうやら有理香は
親父に何かをされて
いるようだった。

しかし、カメラが
固定されているため
確認する事ができない。

くそっ！
カメラのアングルを
横に向けられたら！



はは：ほら見なさい？

んあ！

もうこんなに愛液が
あふれ出してゐるぞ？

っっ

み、見せなくて
いいってば！

はあっ

ふふ：相変わらず
濡れやすい身体だなあ。

もう、ヤダっ。
お父さんの変態っ。

んあ！

クチュ！

んあ！

クチュ！

クチュ！

はあ…はあ…。
ねえ、そのカメラ
回ってるの？

ん？ああ、そういえば
まだ録画中だったな。

はあ

あのさあ…
恥ずいから一回
止めない？それ。

はは…何を言うんだ。
有理香の可愛いイキ顔を
撮らないともったいない
じゃないか？

あ

ク
チ
ュ

ク
チ
ュ

ク
チ
ュ

ほら、ちゃんとカメラを
見るんだぞお？

あつ…ちよ…
ちよつとおお！

ピクッ

んあ！

はあッ

ん…

ん…

ん… ピクッ

あ…

ん…

はあッ

ズン

ズン

ズン



突然、カメラを向けられ
驚きの声を上げる有理香。

カメラが放置されている間
どうやら親父はマンコを
背後から弄っていたらしい。

画面には無修正の局部が
ドアップで映し出される。

有理香のアソコは
すでに大洪水だった。

お父さん
嫌だって…!

カメラっ
一回止めてよお。

はぁっ

ビクッ

アッ

はは…なにを今更
恥ずかしがってるんだ?

昨日の撮影でも
撮っただろう?
イクところは。

んあ!

そ、そうだけごま…!

あっ!

く!!

んっ!

ビクッ

っ!!

ググ

ググ

ググ



き、昨日は後ろから
だったし…んっ。

んあ！

こんな…接写で…
か、顔も見えてる
状態とか…あっ…。

はあっ

は、恥ずいからあ！

あっ…

はは…それが
いいんじゃないか。

あっ…

父さんは有理香の
イキ顔を撮りたいんだ。

んっ…

ズググ

ズググ

ズググ

それに有理香も
まんざらじゃ
ないんだろう？

ええっ…？

せりり

はあっ

口じゃ嫌だと言っても
身体の方は騙せないなあ？

あっ…

さっきと比べて
濡れ方がまた一段と
違うのがわかるぞ？

んっ

んっ

あっ…はあっ…
違う…違うってえ！

ズチャ

ズチャ

ズチャ

んっ

指が出たり入ったりする度にとめどなく溢れ出る愛液。

んあ！

親父の指はもうマンコの奥にまで到達している。

はあっ

時折、切羽詰まった吐息を漏らす有理香。

んあ！

その快楽に染まった顔は早くもメスの表情になっていた。

はあっ

あっ！

クィン
グニ
クニ

あ...
どうした？
有理香あゝ。

ピアノを弾く手が
止まってるぞお？

あ、無理だったえ。

はあ...
こんな状況で
ピアノ弾けないい。

ははは！
情けないなあ！



てか、お父さんっ。

もう、ピアノとか
いいからあ……。

ビクン

もっと……
ちゃんと……。

はあっ

ちゃんと気持ちよく
してよ……お願いっ。

なんだ……まだ
物足りないのかあ？

んあ……

ビクン

あ……

はあっ

クン
クン
クン

お父さん…さっきから
焦らしすぎなんだもん。

んあ…

いきそうになったら
指動かすの止めるし。

ん…

もう…これ以上は
眼界だよ…。

あ…

はは…すまんすまん。
意地悪しすぎたか？

あ…

じゃあ、そろそろ
本格的にやろう。

ん…

はあ…

ズググ

ズググ

ズググ

じゃあ有理香……
椅子に上りなさい。

そして尻を
突き出すんだ。
犬みたいにな。

はー

はー

えっ、うん。

はー

ふふ……たつぷりと
可愛がつてやるからな。





有理香は椅子の上に登り
ピアノの台に手をついて
四つん這いの体勢になる。

親父の指示通り
尻を突き出す恰好だ。

露出したマンコに
親父は再び指を挿入。

根本まで埋まると
親父はそのまま指を
ピストンさせ始めた。



あっ。。

ん。ピョッ

はっ

やっ。。これ
凄いつ。。。

あ。。

あはっ。。んっ。

んあ。。

はっ

ゆ、指が奥まで。。
ズボズボ来るう！

ん。。

ズチャ

ん。ピョッ

ズチャ

ズチャ

はっはっは
凄いな有理智！

さつきから
愛液が滝のように
こぼれてくるぞお？

まるでおもらしを
してるみたいだな！

そんなに父さんの
指が気持ちいいのかあ？

ズチャ

ズチャッ

ズチャッ

はっ

んあ

ん
ビュッ

ん

ビュッ
ん

あ

ん

い：い：いっ！

あ？

ん

気持ちいいよお！

んあ

お父さんの指
凄く気持ちいいのお！

はあ

もつと犯して！
奥の方までえ！

ん

はっはっは！
了解だ！

ん

グチャ

グチャ

グチャ

ビクッ

ん

マンコを攻めながら
親父は胸に手を伸ばす。

そして肌の柔らかさを
堪能するかのように
ゆっくり揉み始めた。

胸を触られながら
うっとりした表情を
浮かべる有理香。

もう完全に有理香は
快樂の虜になっていた。

はぁっ

あっ..

んっ..

いっ

いっ

あっ..

はぁっ

ズン
ズン
ズン

あっ...あっ...!

ん...

はあっ...あっ...!

あ...

や...ヤバイ...
もうヤバイっ!

ん...

はあ

いきそう...
もういきそうっ!

んあ!

て... ぴん

ぴん

ぴん

ぴん

ぴん

て...

て...

いきそうなのか？

はぁっ

ん

うんっ！

あっ

イかせて欲しいか？

く

うん！イきたい！
イきたいのぉ！

んあ

あっ

じゃあおねだり
してみなさい。
真剣にだぞお？

はぁっ

お…おねだりっ…

ゴキョッ

ゴキョ

ゴキョッ

どろろ

てっ

い…イかせて…

はぁ

お願い…イかせて！
お、お父さんっ…

んあ…

ゆ、有理香のマンコ
もっと弄って！

はぁ

いっ

く

いっ

んっ

どろろ
く

ズチャ

ズチャ

ズチャ

実の娘のマンコ…
たくさん犯してっ！
犯しまくってええっ！

んあ…

どろろ

く

ははは：いい！
よく言ったぞお！

なんていやらしい
おねだりするんだ
このエロ娘はあ！

じゃあお望みどおり
イかせてやるからな！
覚悟しろよお：：？

うん：来てっ！
いっぱいしてっ！

んあ！

あっ！

はあっ

はあっ

てっ！
ピクッ

ズグ

ズグ

ズグ

っ
っ

っ
っ

あっ...ああっ!

ん...

はあっ...ヤバイっ!
ヤバイヤバイっ!

はあっ

んあ...

はあっ

あ...

びび...

もうダメっ!
ダメダメっ!
ああああっ!

ん...

イクっ...イクイク
イクううううっ!

ズン...

ズン...

ズン...

ズン...

ズン...



いっしょに遊ぼう!

びしょ

びしょ

びしょ



動画の中で有里香が絶頂を
迎えた瞬間：俺もまた射精した。



2本目の動画を見終わり
俺は呆然と画面を眺めていた。

1本目よりも2本目の内容は
よりエスカレートしていた。

だとすると残りの動画には
更にとんでもない行為が
記録されているのだろうか？



2人の関係がそのまま
進展してしまえば、きつと
取返しがつかない事になる。

しかし、現実には親父と妹は
かなりの関係まで進んで
しまっている…。

果たして俺が邪魔する程度で
この問題を解決できるのかと
今更、不安になってくる。

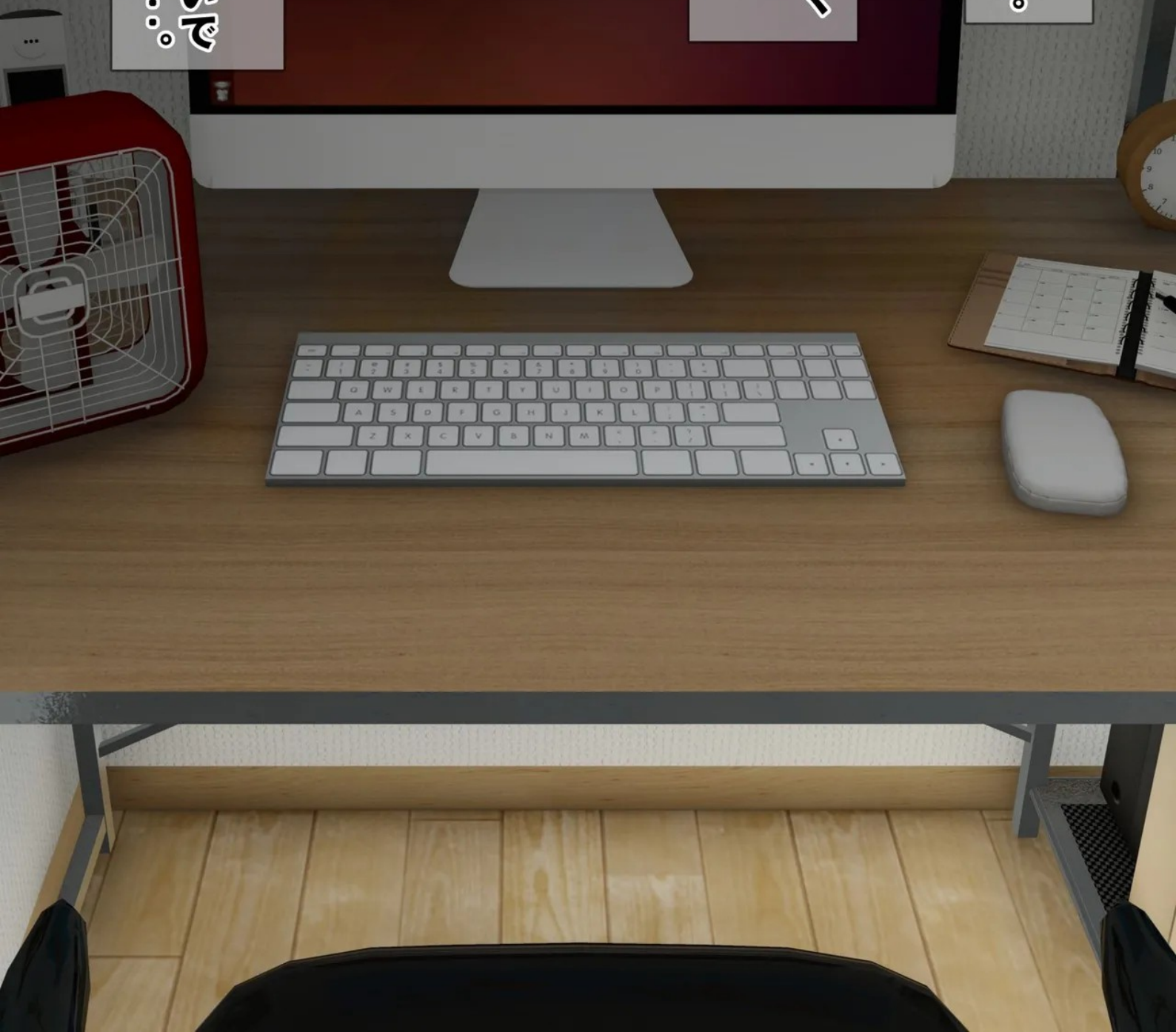


しかし……その問題とは別に
想定外の事態も発生していた。

2人の関係を正しく
把握するために
見始めたこの動画。

その視聴中に
俺の中にある衝動が
渦巻始めたのだ。

それは俺自身が戸惑い
混乱してしまう程の勢いで
内側から溢す**負**の衝動……。



それは、有理香の肉体に対する
激しい情欲の衝動だった。

翌朝、ベッドで目覚めた俺は
すぐさま時計を確認した。

時刻は6時45分過ぎだった。



時刻を確認した俺はベッドから
すぐに起き上がった。

大学の授業は午後から
だったので午前中は
寝ていてもよかったが…。

親父が有理香に手を
出さないように朝も
監視が必要なのだ。

俺は身支度を終わると
一階のリビングに向かった。



リビングに入ると
有理香と親父が
朝食をとっていた。

珍しく起きてきた俺を見て
2人は目を丸くしていた。

有理香にご飯をよそってもらい
俺も一緒に朝食を食べた。

俺は食事をしながら
2人の様子を観察したが
特に変わった所はなかった。



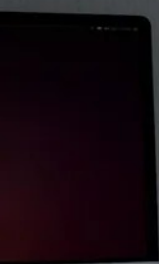
食事が終わると親父は
鞆を持ってリビングを出る。

有理香は「見送る」と言っ
て一緒に玄関についていた。

たとえ短い時間であっても
2人きりするのは危険だと感じ
俺も有理香の後に続いた。

その俺の行動に対して
親父は特に反応を示す事なく
あっさりと家を出ていった。

その30分後……。



有理香が学校に向かったの
で俺は部屋に戻ってきた。

俺が傍にいたからか、
親父が有理香に手を出す
素振りには全くなかった。

とりあえずこれで
朝の時間帯は
乗り切る事ができた。



まだ大学に行くまで
時間もあつたので
俺はPCを立ち上げる。

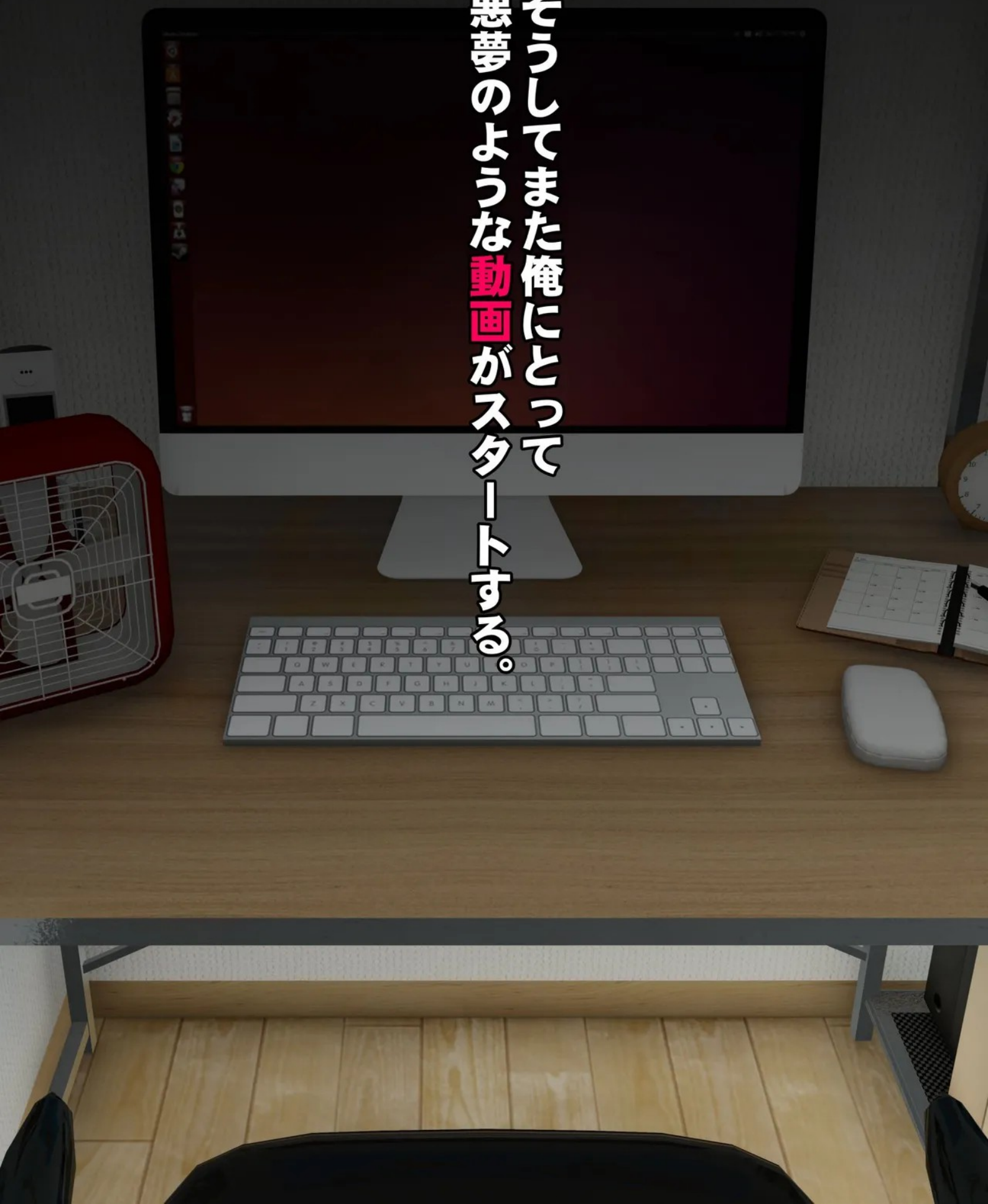
昨日はあれから更に4本の
動画を消化していた。

俺は時間がある限り
動画を見続けるつもりだった。

そうしないと、このモヤモヤした感情に
今にも押し潰されそうだったのだ。



そうしてまた俺にとって
悪夢のような動画がスタートする。



イエーイ。
映ってるう？
ピースピース。

お、なんだか
今日はご機嫌だな？

だって、気分上げなきゃ
やってらんないじゃん？

どーせまた
変態撮影会に
なるんだしさ。

はっはっは。
酷いなあ。



動画が始まると全裸の有理香が
カメラにピースしていた。

さすがに撮影にも
慣れてきたのか
余裕の表情だ。

親父はそんな有理香を見て
満足そうに笑っている。



それで今日の撮影は
お触りOKでいいな？

え？今更？

ん？そうだったか？

毎回、勝手に触ってる
気がするんだけど？

そーだよ。



ふふ：それにしても
相変わらずエロい
おっぱいしてるなあ。

よし！

今日はこの立派な胸を
弄り倒してみるか。

あのさ：お父さん。
触ってもOKなのは
撮影の時だけだからね？

挨拶とかいって
気軽に触ってくるの
マジで止めてよね。

はは：了解了解！

じゃあ……
まずは乳首から。

クニ

あっ……



ほら…どうだ？
乳首は感じるか？

え…？
わ、わかんない。

どっちかって言ったら
くすぐりたい…かな？

はは…そうか。

ドキ

ドキ

ドキ

クイ

クイ



親父は指の腹で
乳首をクリクリ弄る。

慣れない刺激を受けて
微妙な顔をする有理智。

だが、しばらく親父が
愛撫を続けていると
その態度が変化する。



んあ！

ん〜どうした？
気持ちよく
なってきたのか？

ん

うう…。
なんか：ゾクゾク
してくるう…。

ん…

ふふふ…有理香は
乳首が弱そうだなあ。

あ…

ん

く

く

はあ

ん

ん



お、お父さん。
乳首ばかり
攻めすぎ……ん。

ふふ……少し
固くなってきたな。

はぁっ

てか、もう
十分でしょ？

はぁっ

はぁっ

そんなに弄ったら
取れちゃうから。

くっく

くっく

ぴゅん

ふん

はは：すまん。
つい夢中でな。。

じゃあそろそろ
ちゃんと胸を
揉んでやろう。

は？なにが
ちゃんとなの？

おお：柔らかい。

い
ん
ん





乳首を堪能した親父は
今度は胸に手を伸ばす。

そして有理香の乳房を
遠慮なく揉みしだく。

有理香は苦笑いしながらも
親父の好きにさせていた。

んく相変わらず
良い手触りだ！

はー

こんな立派なおっぱいを
触らせてくれるなんて
有理香は親孝行だよなあ。

はー

っ
お、大げさだし。

はは：しかし、こうやって
有理香の胸を揉んでると
昔の母さんを思い出すな。

ムニャ

ムニャ

ムニャ



懐かしいなあ。

母さんと付き合った時の
ちょうど有香ぐらいの
年齢だったもんな。

あ…あのさあ。

しまじろ…

はあ

はあ

いっ

いっ

いっ

うん

人の胸を揉みながら
勝手に感傷に浸らないで
くんない？



はは：。
すまんすまん。

はあっ

最近、有理香を見ると
つい母さんの事を
思い出してしまってたな。

はあっ

：っーかさあ。

まだあの人の事
引きずってたんだ？

家を出て行って
何年も経つのに。

はあっ

いーっ

いー

いーっ

いーっ



そりゃあなあ：
父さんの初めての
相手だったからな。

いや：しかし：
最近の有理香は本当に
母さんに似てきたな。

はー

はー

はは：

情けない話だよなあ。
不倫で捨てられたのに
未練が残ってるなんて。。。

ムニッ

ムニッ

ムニッ



なにそれ：私は
代わりだって
言いたいワケ？

あ：ち、違うんだ。
有理香の方が何倍も
可愛いぞ？もちろん。

慌てて誤魔化そうと
してもバレバレだけど。

はは：参ったな。
信じてくれよお。

いーっ

いーっ

いーっ

：っっても、まあ私も
人のこと言えないけど。

たまにあの人の事
思い出すことあるし。

はは：よく喧嘩
してたもんな？

はあ

はあ

いー

いー

いー

びびり

マジで嫌いだったもん。
人を見下してくるし。
嫌なことばっか言うし。

まあな……



だからさあ……。
お互い早く忘れよう？

はぁっ

はぁっ

お父さんの人生まだ
これからじゃん？

新しい恋人作るとか
婚活するとかしてさ。

いつまでもあんな
最低な人に依存してちゃ
ダメだって：絶対。

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



有理香は上気した顔のまま
母への不満を漏らしていた。

そういえば有理香と母は
昔から仲が悪かった…。

もしかして…有理香が
お父さんっ子なのは
それが原因だろうか？



はっはっは……。
有理香には敵わないな。

エエッ
ハッ

くっ

あっ……

セクシ

くっ

じゃあ有理香：父さんに
恋人を作れっていうなら
リハビリに協力してくれ。

は？リハビリ？

はぁっ

はぁっ

父さんの恋愛経験は
数十年前で止まってるからな。

ブランクを埋める
手伝いをして欲しいんだ。

ピクッ
フ



て、手伝うって……。
具体的に何するの？

そうだな……とにかく
女性経験を積みたいからな。

はあっ

はあっ

例えば……父さんと
セックスするとか？

は、はああ？

ドキ

ドキ

ドキ

クゥ

クゥ

あっ…

む、無理無理っ！
お父さんとエッチは
出来ないって！

はあっ

酷いなあ…。
そんなに全力で
拒否しなくても。

はあっ

だ、だって…
ありえないし！

んっ…

はあ…悲しいなあ。
父さんに寂しい人生を
送れって言うのか？

そ、そこまで
言ってないでしょ？

どろん
っ

くっ
っ

くっ
っ

まあまあ……。話を聞きなさい。

将来、恋人が出来た時の
予行演習だと思えば
気が楽じゃないか……？

優しくするぞお？

だ、だから無理だって。

さすがにお父さんと
エッチは出来ないって。
き、近親相姦だし……。

ピクン
パ

はぁっ

はぁっ

クッ
クッ

クッ
クッ

ピクン
パ



有理香は親父からの
セックスの誘いを
完全に拒否していた。

やはり一線を越えるのは
抵抗があるんだろう。

親父は粘り強く説得するも
有理香はなかなか「うん」と
言わなかった。



はあ：仕方ない。
そこまで言うなら
諦めよう……。

しかし、リハビリには
付き合ってくれるな？

はあっ

はあっ

ううゝわかった。
エッチ無しなら。

ふふ……じゃあ
交渉成立だな。

セックスは無しで
それ以外OKという
条件ならどうだ？

ぐわい

ぐわい



有理香を説得するのは
難しいと判断した親父は
代替案を持ち掛けた。

それは、セックス以外なら
受け入れるという内容だった。

本番行為なしという
条件を聞いた有理香は
しぶしぶ了承する。

んっ

ふふ…それにしても。

んっ

あっ

さっきから乳首が
ビンビンだなあ？

はあ

クッ

気持ちいいのかあ？

んっ

クッ

う…うん…。
マジで気持ちよく
なってきたかも…。

んっ

く

はは：それじゃあ
自分でも弄って
みたかどうか？

ええっ：
自分で？

はあっ

はあっ

んっ…
こんな感じ？

ああ：そうだ。
指で転がす感じでな。

キスッ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



んっ…あっ。

んあ。

ふふ…どうだ？

や、ヤバイこれっ。

はっ

んっ…
びびっ
びび

ゾクゾクするっ…

くっ
くっ
くっ

はは…
そうかそうか。

もっと感じて
いいんだぞお？



乳首を攻められながら
自らも乳首を弄る有理香。

有理香はすでに
カメラの存在も忘れた。
快楽に酔いしれていた。

そんな有理香の様子に
ニヤニヤとしながら
動画を撮り続ける親父。

その表情は切なく歪み
時折、ビクンと身体を
震わせ刺激に耐える。



なあ……有理香。
そろそろイきたく
なってきたか？

う、うん……。
イきたいっ……

はは、やけに素直だなあ？

だ、だって……。その……
乳首の刺激だけじゃ
物足りなくて……

はあっ

っ

あっ

はあっ

んっ

っ



じゃあ：イカせる前に
奉仕してもらおうかな。

え…？
ほ、奉仕？

あ…

少しはお返しを
して貰わんと。

はあ

んあ！

ああ：有理香ばかり
気持ちよくなつて
不公平じゃないか。

え、ええと…。
何をしたらいいの？

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ふふ・奉仕といったら
決まってるじゃないか。

はぁ

あ

父さんのチンポを
気持ちよくするんだ。

ピクッ
バ

ええ・チンポっ?

ん

クッ

クッ

ん

はぁ

なんなら……
フェラでも
いいんだぞ?

んあ

ああ・そうだ。
有理智の手で撫でたり
こすったりしてな?



ええっ！
フエ：フエラは
無理だって！！

おやおや？
セックス以外なら
OKなんだろう？

で、でもヤダ！絶対。
舐めるとか汚いもん。

はは・酷いなあ。

あっ！

くっ！

はあ

あっ！

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



じゃあ仕方ない。
撫でる程度なら
大丈夫そうか？

ま・まあ、それ位なら
いいけどさあ...

はあっ

うう...。
わ、わかったあ。

はあっ

はは：決まりだな。
じゃあ、しっかり手で
ご奉仕するんだぞお？

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

親父は有理香の目の前で
下着を脱ぎ始めた。

そして全裸となった親父は
そのまま仁王立ちになる。

有理香は親父の
股間を見てビククリ
した様子だった。

勃起したチンポを見るのは
初めてだったらしい。



はっは：どうだ？
父さんのチンポは。

立派なモノだろう？

う：うん。
薄く大きい。

うわー

ぐわー

ち、チンポってこんなに
大きくなるんだ：。。

ドキ

ドキ



さあほら!

照れてないで早く
チンポに触って!

父さんにご奉仕を
してくれるんだろう?

あ……うん。

……って、困っ!

な、なにコレ?..
こんなにガチガチに
なっちゃうの……?

ギョッ



握るだけじゃなく
手も動かすんだぞ？

え？こ、ことう？

おお、そうだ。
ゆっくりとな？

っ
：わ、ちよつと！
なんか垂れてきた？

はは：男も気持ちいいと
チンポが濡れるからなあ。

グシ
グシ

お：お父さんっし
濡れすぎじゃない？

ふふ。。。
有理香も人の事
言えないだろ？

有理香のアソコも
びしょ濡れじゃないか。

こ、これはさっき
乳首弄られたから
その時のっ！

チンポ擦るたびに
いっぱい変なのが
出てくるんだけど。

はっ

はっ



ふふ、誤魔化さくても
いいんだぞお？

だ・だから
違うってば！

お父さんみたいな
変態と一緒にしないで。

はは・酷いなあ。

だって・事実じゃん？



：っていうか！
いつまでやれば
いいのコレ？

ん？そうだなあ。

はぁっ

はぁっ

ドキ

ドキ

ドキ

ニャッ
ニャッ

本当は射精するまで
お願いしたい所だが…。

出すだけじゃ正直
つまらんからなあ。



せっかくの機会だし
スマタでもするか？

な、なにそれ：
どうやるの？

チンポとマンコを
擦りつけてだな：

は、はあ？
嘘でしょ？

え？スマタ？

はあ

はあ

ふふ：入れたり
しないから安心
しなさい。





親父は手コキを中断すると
グツと有理香を抱き寄せた。

有理香は一瞬、身体を
強張らせたがすぐに
脱力して身を任せた。

親父は勃起したチンポを
有理香の股にくぐらせ
足を閉じさせる。

そしてチンポが太ももに
キツく挟まれた状態で
親父は腰を振り始めた。

おおっ。
こりや凄い！

あっ。

太ももに圧迫
される感触が
たまらんな。

はあっ

このムチムチな尻も
最高の揉み心地だ。

んあ。

この調子だとすぐに
イっちゃいそうだぞお。

ズン
ズン

ズン
ズン

ズン
ズン

ビュン

く、

はあ：はあ。
どうだ有理智香。

はあ

アソコが擦れて
気持ちいいだろう？

あ

んあ

ピクッ
バ

はあ

う：うん。
嬉しいっ。

んあ

刺激強すぎて
お：おかしく
なりそお：っ。

ピクッ
！

ズグ

ズグ

ズグ



はは：こんな程度で
音を上げるなよお？

これからたっぷり
感じるポイントを
擦ってやるからな！

あつ：やあつ！

ん…

へへへ…早すぎないっ。

あ…

んあ…

ん…

ん…

ん…



親父は有理香のお尻を
驚掴みにしたまま
激しくピストンする。

有理香のアソコは
もう愛液まみれだ。

親父が腰を動かすたびに
水っぽい音が部屋に響き
周囲に体液が飛び散る。

親父と有理香はまるで
動物のように性を
擦り合っていた。



ふふ：アソコがもう
大洪水じゃないか。

そんなにチンポが
気持ちいいのかあ？

はあ

へ

ピクン

あ

う：うん。
気持ちいい？

ん

もっと激しく
してえ。

はあ

ピクン

パン

パン

パン

あ



じゃあ：有理香。
おねだりしてみなさい。

父さんをもっと
興奮させてくれ。

ドキ

ええっ？やだ。
恥ずいっ。

おねだりしないと
終わりにするぞお？
それでもいいのか？

うう……。
仕方ないなあ。

はあ

はあ



はぁっ

お、お父さん…
私のマンコ擦って。

固くて大きい…
お父さんのチンポで
グリグリしてっ…。

はぁっ

も、もっと激しく
ズッズッして…！

はぁっ

お、お父さんのチンポで
私を滅茶苦茶にして！

ドキ

ドキ

ドキ

はっはっは！
合格だあ！

なんていやらしい
おねだりするんだ
このエロ娘はあ！

あっ……！

じゃあ、お望みどおり
滅茶苦茶にしてやるぞお！



あっ：はあっ！

チンポやばい：。
これやバイっ！

あっ：

んあ：

ピクッ
バ

気持ちいいっ！
気持ちいいのお！

はあっ

ははは！
たまらんだろう！

はあっ

ん：

ピクッ
！

ズグ

ズグ

ズグ



有理香のおねだりに
興奮した親父は激しく
ピストンを開始した。

その動きにつられて
有理香もたどたどしく
腰を使いだす。

腰の動きを合わせながら
父娘は快感を高め合う。

その光景は悪夢のように
エロティックだった。



はあ…はあ…。
なあ、有理智。
キスしないか？

ふえっ…？
キ、キスっ？

ゴッソッ

はー

はっ

はっ

はー

父さん…なんだか
我慢の限界なんだよお。

や…でも
さすがにそれは…。



いいじゃないか!
1回だけ試しに…な?

はぁっ

だ、ダメだって!
やっ…ちよつと。

はぁっ

ほら、有理智も
唇を突き出して?

っっ

や…ヤダっ!
待って…待って。

はぁっ

んっ…んんっ!

く…
ぞろぞろ

ぞろぞろ

く…

く…

本気で嫌がる有理香に
強引にキスをする親父。

はぁっ

有理香は逃れようとしたが
力では敵わないと悟ったのか
徐々に大人しくなった。

んっ

くちゅ

あっ

その態度に気を良くし
親父は舌を侵入させる。

ぬちゅ

んあ

それは徐々に濃厚な
ディープキスへと発展した。

はぁっ

ふう〜…。
なかなかキスが
上手いな有理香。

さてはもう誰かと
経験済みだったか？

な、何言ってるの
バカあつ…!!

人のファーストキス
奪っておいてっ！

ん？そうだったのか。
はは…悪かったなあ。



…ってかお父さん。

キスはいいけど：
ペロチューとかは
流石にマズくない？

はぁっ

お、親子なんだし。

はぁっ

はは…今更だな？
もっと過激な事も
してるじゃないか。

そ、そうだけどお。

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



なんか生理的に
親子でベロチューは抵抗
あるっていうか：んっ。

んっ。

ふふ：じゃあ
たくさんキスして
慣れないとな？

んあ：

んっ。

はあっ

ちゅぽ。

な、なにそれっ。
意味不明っ：ん。

はあっ

ふふ：おしゃべりな
お口は塞いじゃうぞお。

ちゅる。

あっ。

それから親父と有理香は
貪るように舌を絡め合った。

甘い吐息を漏らし
親父にしがみついて
キスをせがむ有理香。

抵抗感が薄まったのか
有理香はやけに積極的だ。

2人は抱き合いながら
何度も濃厚なキスを交わす。



んっ…お、お父さん。
あ…はあっ…

わ、私…もう
ヤバイかもおっ…

ん…？
イきそうか？

う…うん。
い、イきそうっ！



ふふ：イかせて
欲しいのか？

はぁ

う：うんっ！
イきたいのっ。

あ

ん

ピクッ
バ

じ、焦らさないで
お父さんっ：！！

はぁ

ピクッ
〜

！！

〜

パン

パン

パン

ははは：いやあ
どうしようかなあ。

ん

はぁ



お、お願いっ。。。
これから何でも
言うこと聞くから。

んあ。

あっ。

お、お父さんのリハビリに
付き合うからあっ。。。

はあっ

はあっ

ちゅぱ

くちゅ

あっ。。

どんなにエッチな事
しても怒らないから。。

んあ。

だからイかせてっ。
気持ちよくして！
お父さんっ。。。

はは：全く淫乱だな
有理香はっ：！！

じゃあ今日から
有理香は父さんの
性欲処理係だ！

このいやらしい身体を
存分に使ってやるから
覚悟しろよおっ！

うん：いいよお！
いっぱい使ってえ！

パン

パン

パン

んあ！

あっ！

んあ！

あっ！

んあ！

くっ！
ビョッ

ビョッ

くっ！

よおし、お望み通り
イかせてやるぞお！

ラストスパートだあ！

うん！来てっ。
激しいのして！

んっ

へっ

んあ

はあ

はあ

へっ

んっ

お父さんのチンポで
イかせてえっ！！

はあ

ピクッ
ド

ピクッ

あ

ピクッ
ピクッ

ピクッ
ピクッ



うおおおおっ!!

んっ

あっ

あっ：凄いっ！
凄いいいっ！

んっ

イク：イクイク！
イっちゃううっ！

はあっ

んっ

ズンチャッ

ズンチャッ

ズンチャッ

ズンチャッ

んあ

あっ



あああっ!!

ビュッ

ビュッ

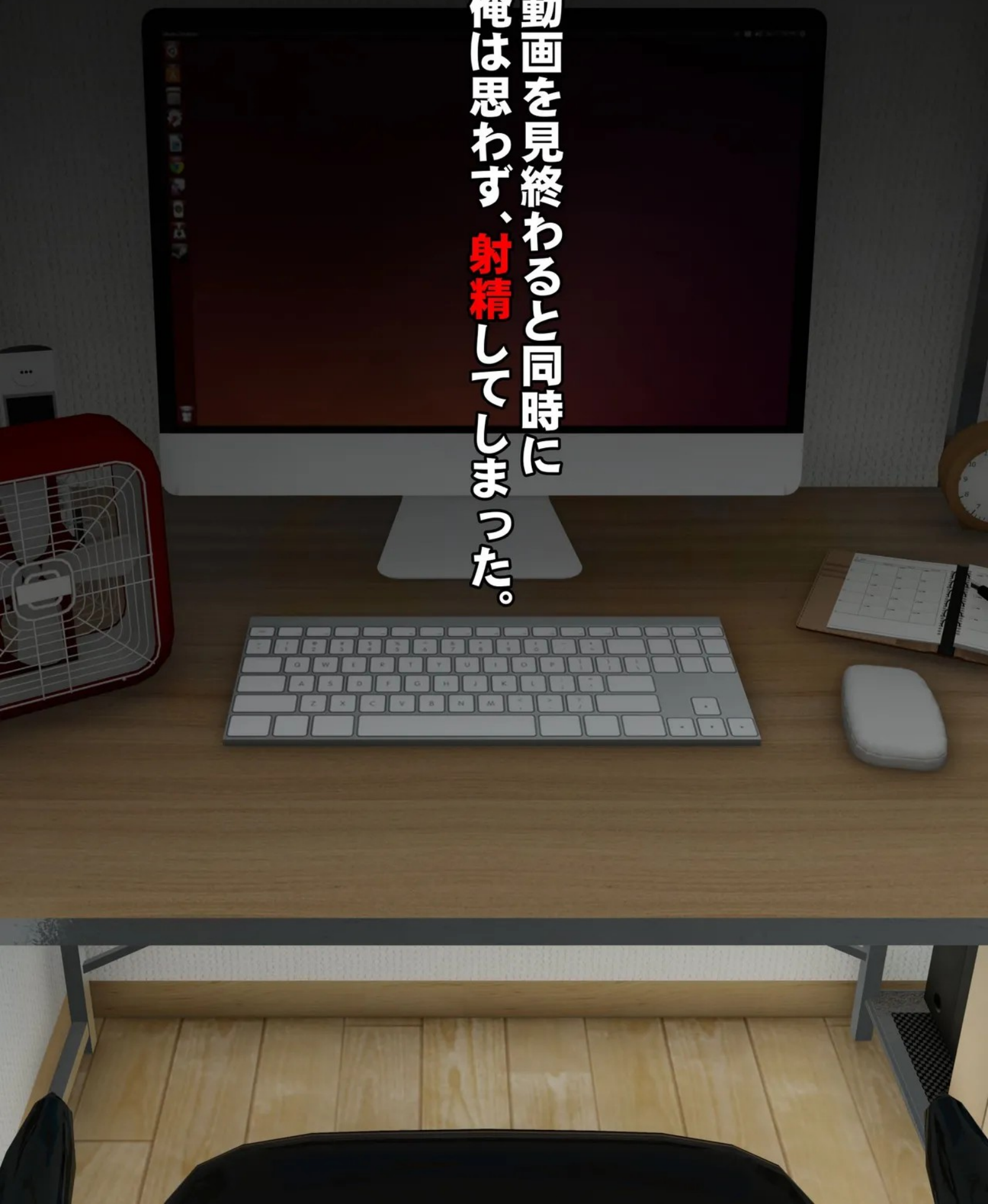
ビュッ

ビュッ

ビュッ



動画を終わると同時に
俺は思わず、**射精**してしまった。



俺はティッシュの中に
溢れた白い液体を見ながら
深い罪悪感に包まれていた。

動画の視聴を重ねるたび
有理智に対する情欲衝動が
高まっている気がする。

一体、いつから俺は
こうなってしまったんだ？

少し前の俺は、実の妹に
欲情するような変態じゃ
なかったはずなのに。



ふと、俺の精神はある「毒」に
犯されている事実気が付いた。

それは近親相姦という
甘美で危険な「毒」だった。

そして動画を見る行為こそ
まさしく「毒」であったし
症状を悪化させた元凶だった。



俺は動画を見る毎に
心のもやもやが次第に強く
なっている事を感じていた。

それはドス黒い炎となって
俺の内側で燃え続けている。

このままでは
俺はいつか暴走して
しまいそうだった。



だが、もはや自分の意志で
動画の視聴を止めることは
出来そうもなかった。

すでに「毒」に犯された俺は
満たされない乾きを癒そうと
動画の視聴を重ねていく。

そして、その度に
確実に削られる精神。

俺は自滅の道を
歩んでいる事を悟りながら
衝動に流され続ける。



やがて、その衝動は**決定的な崩壊**の
きっかけへと発展していくのだった…。